OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

香川生物（Kagawa Seibutu）（26）：21－26，1999.

香川県のテン *Martes melampus* について

森井隆三

〒762－0083　香川県綾歌郡飯山町下法軍寺664－1　香川県立飯山高等学校

One Specimen of *Martes melampus* collected from Kagawa Prefecture

Ryûzô Morii, *Hanzan Senior High School Hanzan, Kagawa, 762－0083, Japan*

はじめに

香川県内のテン *Martes melampus* についての記録は少なく，岡内（1978）の習性と分布および香川県（1978）の分布に関するものがあるのみで，外部形態および内部形態についての記述は今までにはない。日本国内でも *Martes* 属の形態学的研究は少ない（松丸ら，1989）。今回テン1頭を入手したので，今後の資料のために報告する。

材料および方法

今回用いたテン *M. melampus*（図1）は，1998年6月27日の22時頃香川県仲多度郡琴南町と綾歌郡綾上町にまたがる首切峠（標高約260m，琴南町側）（図2）で入手した。体重は上皿ばかりで0.1kgまで，外部形態は物差しで1mmまで，頭骨は標本にしたもの（内部形態，図3，①②③）をノギスで0.05mmまで計測した。胃の内容物は胃を解剖して肉眼で内容物を確認した。

結果および考察

今回用いたテンは雄であった（標本番号 R 0074）。テンはかってはThomas（1905）によって主に毛色の違いを根拠にキテン *M. melampus melampus* とススステン *M. m. bedfordi* の2亜

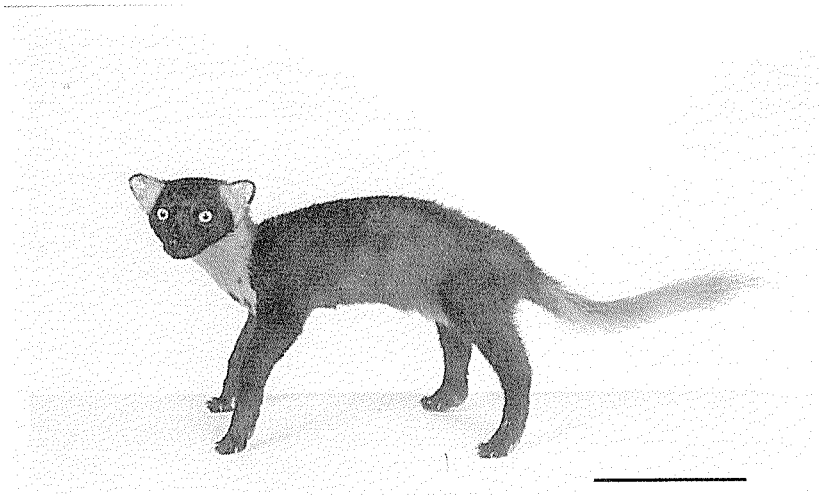

図1． テンの剥製標本（雄；R0074）
右下のスケールは10cmを示す。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

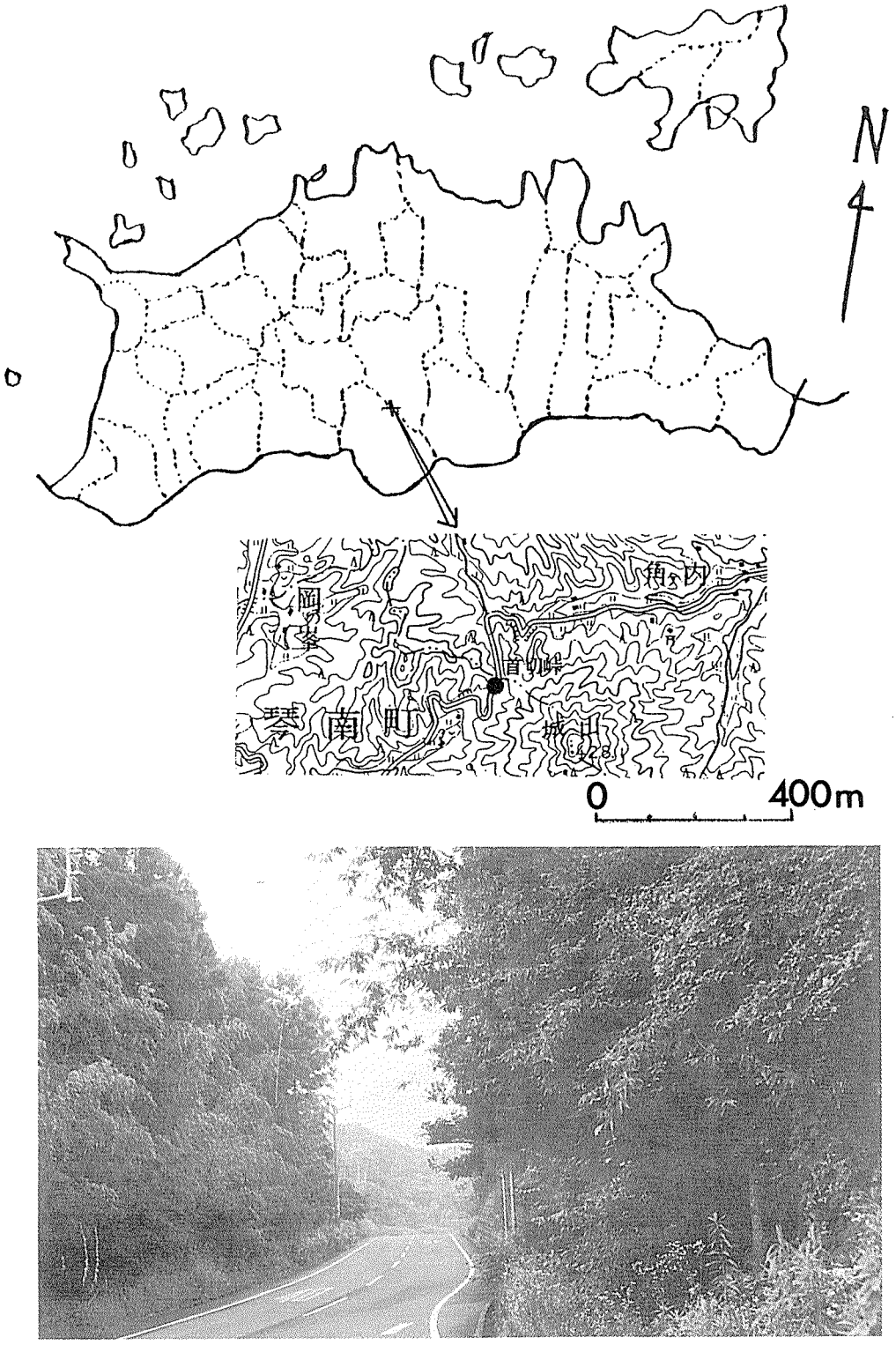

図2．テンを拾得した付近（琴南町）

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

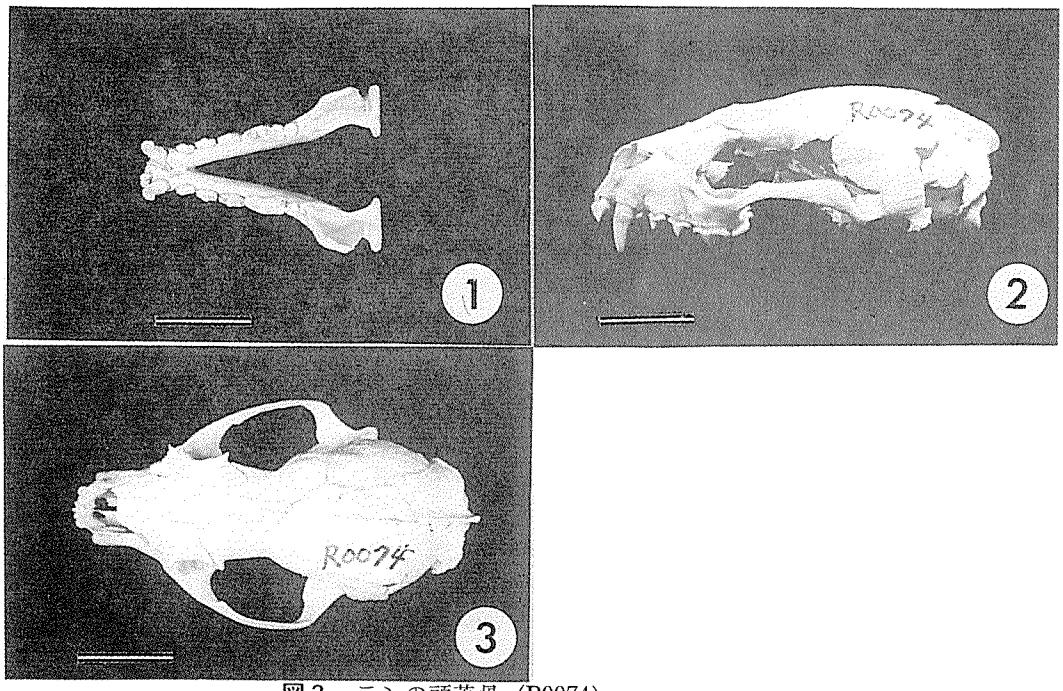

図3．テンの頭蓋骨（R0074）
① テンの下顎　② テンの頭骨側面
③ テンの頭骨背面
各図の左下のスケールは 20mm を示す。

種に分けられていたが，現在は両者の違いは同一亜種の変異であるとされている（Andersen, 1970 ; Ellerman & Morrison-Scott, 1951）。今回の個体は，かってのキテンであった。テンを入手した首切峠の周辺はスギ *Cryptomerica japonica*, ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* およびマダケ *Phyllostachys bambusoides* の混交林で，山と山の間に約 6.5m のアスファルトの道路が走っている（図2）。テンは拾得した時は外見上は左の下顎と目に損傷が見られ，血が出ていた程度でその他外部形態には異常はなかった。しかし，頭骨を出してみると，30 数片に破損しており交通事故にあったと推測される。

外部形態と内部形態の計測値を表1に示している。今回の個体の頭骨は縫合が閉じていたが，歯の摩耗の度合いからみると，亜成獣ではないかと思われる。個体数が少ないので計測値を他の地域と比較することは難しく今後の課題である。しかし，近くの淡路島の洲本市池田で捕殺された 1 頭を見た宮尾ら（1983）は，本土のものより小型であるという。今後四国の個体についても詳細に検討する必要があるものと思われる。

今回の個体の歯式は切歯，犬歯，前臼歯，臼歯の順に 3/3, 1/1, 4/3, 1/2 であった。今泉（1960）によると前臼歯は 4/4 である。高知で捕獲したテンの歯式は今泉（1960）と同じであったという（中西，私信）。今回の個体を詳細にみてみると，下顎の前臼歯が左右とも1本少なかった。後藤ら（1986）によると，イタチ科 *Mustelidae* では，第一前臼歯は退化傾向をしめし，痕跡的にのこるもの，消失しているものなど，さまざまであるという。今回の個体は第一前臼歯が消失した個体であったものと思われる。

胃の内容物を見ると，甲虫類（Coleoptera）と思われる後翅が3対，体の一部，前翅，脚の破片およびフツウミミズ *Pheretima communissima* と思われる体の一部が確認された（図4）。後翅の一対は大きさからみてカブトムシ *Allomyrina dichotomus* ではないかと思われる。

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

表1 香川県産テン（雄；R0074）の外部形態および内部形態の計測値

外部形態		内部形態	
体重	1.2Kg	頭蓋骨全長	85.5mm
頭胴長	399mm	基底長	83.0mm
尾長	181mm	頬骨弓幅	50.0mm
耳介長	36mm	脳函高	27.9mm
前足長	52mm	脳函幅	33.2mm
後足長	74mm	眼間部幅	20.4mm
尾率	31.2%	上顎歯列長（犬歯ー臼歯）	34.6mm
		上顎犬歯間幅	15.9mm
		上顎臼歯間幅	23.4mm
		下顎骨長	52.7mm
		下顎歯列長（犬歯ー臼歯）	33.9mm
		下顎犬歯間幅	13.1mm
		下顎臼歯間幅	24.5mm

表2 香川県内（1975-1978年）でのテンの記録（岡内，1978から作成）

年月日	場所	年月日	場所
1975. 5. 2.	仲多度郡琴平町旧社務所	1977. 1.24.	大川郡白鳥町入野山
1975. 4.13.	綾歌郡綾上町東分	1977. 1.24.	小豆郡内海町寒霞渓旧参道
1976. 3.23.	高松市東植田町	1977. 1.24.	香川郡塩江町安原上西
1976.12. 1.	観音寺市池之尻町	1977. 1.24.	大川郡長尾町多和
1977. 1.24.	大川郡大内町南川	1977. 7.13.	大川郡寒川町小倉
1977. 7.13.	〃	1978. 3.10.	高松市五色台白峰

テン *M. melampus* の胃の内容物について御厨（1967）は，*Apodemus* と思われるネズミの毛，キジ *Phasianus colchicus* またはヤマドリ *Phasianus soemmerringii* のヒナの趾片3個，植物片および動物の骨片を，岡村・小原（1969）は，ヒヨドリ *Hypsipetes ammaaurotis* の羽毛多数，枯葉の小片少量を，そして宮尾・黒瀬（1977）はクワ *Morus tiliaefolia* を確認している。また，糞の中に，吉行・御厨(1974)はアキグミ *Elaeagnus umbellata* の種子およびノウサギ *Lepus brachyrus* の毛を，高田（1977）は，哺乳類（ノウサギ，ネズミ類，食虫類），鳥類，両生類，昆虫類（直翅目，鞘翅目，膜翅目），果実類および担子菌類を確認している。小原（1970）はツシマテン *Martes melampus tsuensis* の胃の内容物としてコウライキジ *Phasianus colchicus korpowi* の趾部を確認している。今回の調査では胃の内容物として甲虫類やミミズが確認されたが，哺乳類や鳥類および植物の一部は確認できなかった。これはテンの食物がテンの成長段階や餌の採集時期

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

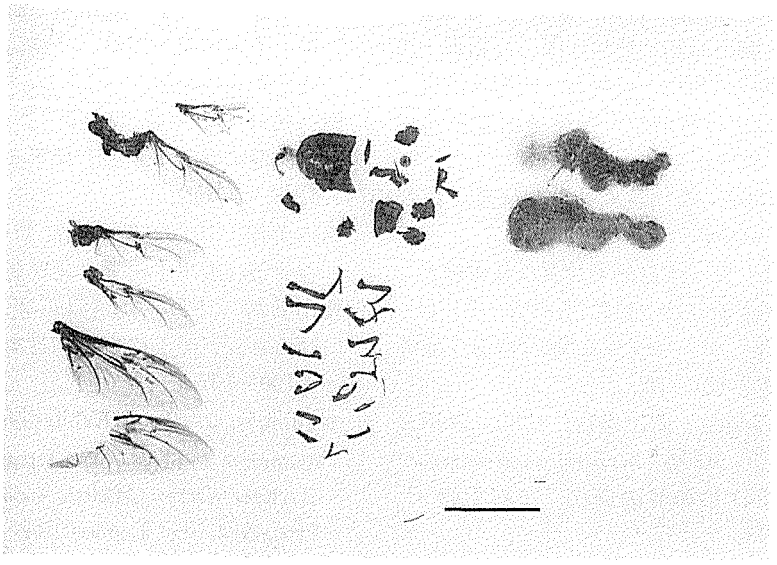

図4． テンの胃の内容物
右下のスケールは 20mm を示す。

および採集場所などと関係しているためではないかと思われる。

香川県内のテンの分布については，岡内（1978）が 1975～1978 年にかけて，情報を得た年月日と場所を表2に示している。また，香川県（1978）は，木田郡および大川郡をあげている。これらの結果からみると，テンは現在香川県内のかなり広い範囲に分布しているものと考えられる。

過去の状況について香川県（1978）は，県下の山間部には，戦前までは，少数ではあるが全域に分布しており，特に，高松市と坂出市にまたがる五色台は，凝灰岩や安山岩の崖が多く，そこが生息に適していたため，かなり分布していた。しかし，テンは戦時中毛皮用として乱獲されたため，終戦当時はほとんど絶滅し，徳島県との県境の阿讃山地にわずかにその生息が見られるだけに減少したが，昭和30年（1955）頃から毛皮の需要が減り，ほとんど捕獲されなくなったため増えだし，東讃地方ではかなり増えているという。

藤沢豊氏（猟師，私信）によると，香川県内のテンの個体数は最近減っているという。日本全体でも減少の傾向がみられ，朝日（1979）は，テンの生息に適した広葉樹林の減少により個体数が減ってきたことなどが考えられるとしている。

謝　　辞

今回の調査を行うにあたり，終始適切なご指導助言をいただいた香川大学教授金子之史博士，材料の情報を提供いただいた吉村正則氏，資料の情報を提供いただいた中西安男氏および藤沢豊氏に感謝いたします。

引 用 文 献

＊Andersen, E.　1970. Quaternary evolution of genus *Martes* (Carnivra, Mustelidae). Acta Zoologica Fennica 130 : 1－132.

朝日稔．1979．タヌキ，テン，アナグマ，イタチ，およびキツネの捕獲数の変動．哺乳動物学雑誌　7（5，6）：324－340.

＊Ellerman, J. R. & T. C.S. Morrison-Scott. 1951. Checklist of Palearctic and Indian Mammals 1758 to 1946.　British Museum (Natural History), London. 810pp.

OLIVE 香川大学学術情報リポジトリ

後藤仁敏・大泰司紀之・石山己喜夫・伊藤徹魯・犬塚則久・駒田格知・笹川一郎・佐藤巌・茂原信生・瀬戸口烈司・花村肇・前田喜四雄．1986．歯の比較解剖学．医歯薬出版株式会社．東京．269pp.

今泉吉典．1960．原色日本哺乳類図鑑．保育社．大阪．196pp.

香川県．1978．第2回自然環境保全基礎調査．動物分布調査報告書（哺乳類）26p．香川県．

小原巌．1970．ツシマテンの胃内容物．哺乳動物学雑誌5（2）：79.

松丸修・渡辺茂樹・細田徹治．1989．本州産ニホンテン *Martes melampus melampus* Wagner, 1841 の頭骨の異変．南紀生物 31（2）：93－98.

御厨正治．1967．イヌに捕殺されたテンについて．哺乳動物学雑誌3（6）：169.

宮尾猛雄・黒瀬広治．1977．テンの胃内容物1例．日本哺乳類雑記（4）：99.

宮尾猛雄・花村肇・植松康・酒井英一・高田靖司・子安和宏．1983．淡路島南部の哺乳類．哺乳動物学雑誌9（3）：128－140.

岡村祐隆・小原巌．1969．天草諸島下島より新記録のホンドテン．哺乳動物学雑誌4（4, 5, 6,）：162.

岡内英孝．1978．香川県における中型哺乳類の分布．香川生物学会発表要旨．

高田靖司．1977．長野県筑摩山地扉峠周辺にけるホンドテンの食性．日本哺乳類雑記（4）：100－107.

＊Thomas, O. 1905. Exhibition of specimens of mammals and birds from Japan and description of a new marten (*Mustela melampus bedfordi*). Proc, Zool, Soc., London 1905（2）：182－183.

吉行瑞子・御厨正治．1974．ホンドテンの習性知見．哺乳動物学雑誌6（1）：39－41.

（＊未見　但し松丸らによる）